熊の作遺跡出土「大領」墨書土器について

宮城県教育庁文化財保護課

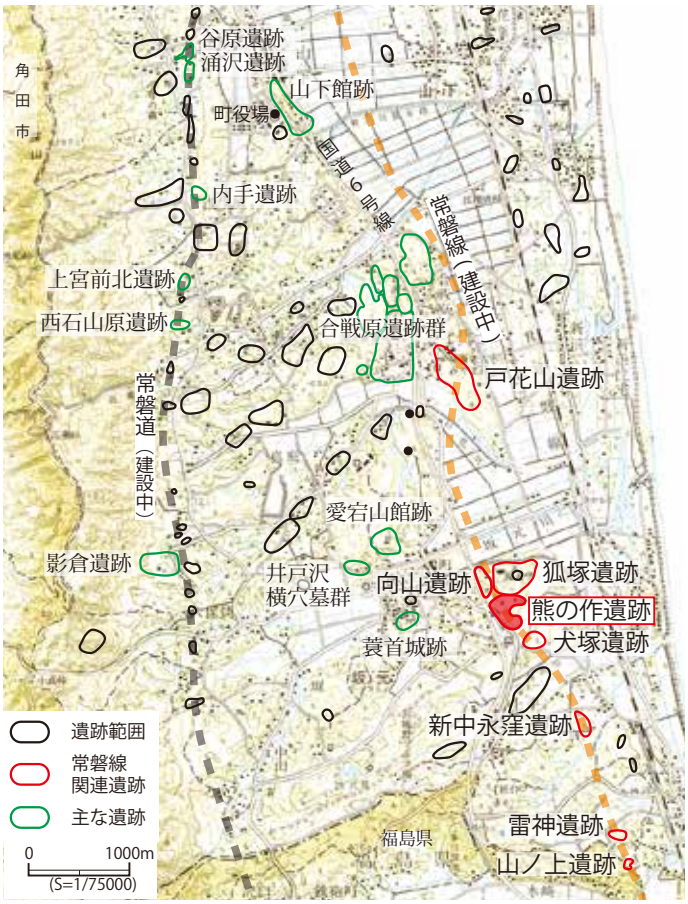
1. はじめに

山元町では、東日本大震災により不通となっている常磐線の復旧工事が進められています。町南部の坂元地区には、計画路線内に戸花山遺跡など８遺跡が確認されており、縄文時代～中世の遺構・遺物が見つかっています。宮城県教育委員会では平成25年度から、これらの遺跡の発掘調査を実施しています。震災からの復興事業として他県市職員の応援も得て、調査は９割以上完了しました。今年度は残りの調査を工事と並行して進めています。

2. 熊の作遺跡の概要

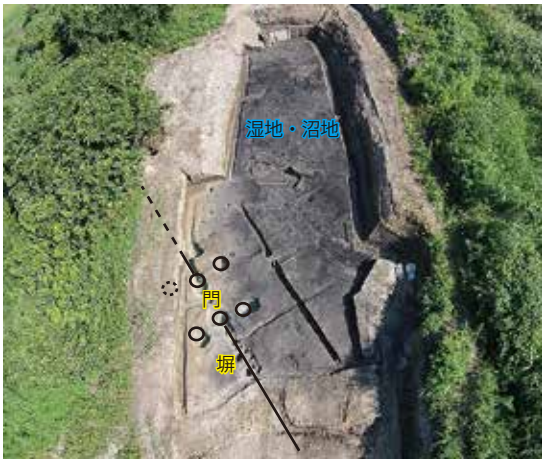
熊の作遺跡は町の南東部、坂元中学校南側の丘陵（標高10～20m）にあります。北側に隣接して狐塚遺跡や向山遺跡があり、いずれも古墳時代～平安時代を中心とする遺跡です。

熊の作遺跡の範囲は南北約300m、東西約250mありますが、そのうち計画路線範囲内（約5,000㎡）の発掘調査を行っています。平成25年度の調査では、7～9世紀（今から約1100～1400年前）の掘立柱建物跡、竪穴住居跡などの遺構が多数見つかりました。特に、遺跡の中央部分にあたる丘陵南側斜面に、奈良～平安時代の大型の建物群が分布しており、それらを囲む塀跡や門跡も確認されました。建物群の南西側に広がる低湿地の層からは、「坂本願」と墨書された土器や、東北地方で最古級の木簡（文字を記した短冊状の板）などが出土しました。今年度はその南東側をさらに調査したところ、墨書土器や木製品が多数出土しました。



図① 常磐線と山元町の遺跡分布

写真① 上空からみた熊の作遺跡周辺（南西から）



写真② 平成26年度調査地点（北西から）

3.出土した遺物について

（1）墨書土器

「大領」と墨書された須恵器が 5 点、「子弟」と墨書された須恵器が 1 点見つかっています。いずれも坏や蓋といった食器に書かれており、8 世紀後半～ 9 世紀前葉と推定されます。

「大領」とは古代の律令制で、郡を治める役人（郡司）の官職として定められたものです。郡司にはその地方の有力者が任命され、「大領」は郡司のなかでも最も位の高い官職でした。また、「子弟」は郡司一族の若者のことを意味し、彼らも役人や軍人として職務を担っていました。これらの墨書土器から、熊の作遺跡に古代亘理郡の郡司がいたことがうかがえます。

「大領」の墨書土器は東北地方では初めての出土で、まとまって出土した例は全国的に見ても新潟県長岡市八幡林官衙遺跡、静岡県藤枝市御子ヶ谷遺跡（いずれも国史跡）などに限られます。

大領
↓
少領
↓
主政
↓
主帳

【参考】
郡司の官職

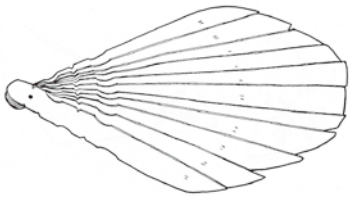
写真③～⑤　墨書土器「大領」

写真⑥　墨書土器「子弟」

（2）木製品

容器・機織り具・装飾品・祭祀具など多様な木製品が良好な状態で出土しました。特に、檜扇は、県内でも出土例の少ない貴重な遺物です。また、木簡は昨年度も含めてこれまでに 11 点確認されています。内容は現在解読中ですが、熊の作遺跡の官衙（役所）的性格を反映したものといえます。

写真⑦　檜扇の出土状況



図②　檜扇の復原図
（奈良国立文化財研究所『木器集成図録』より）

写真⑧　笏状木製品の出土状況

4．まとめ

熊の作遺跡の調査では、門と塀で囲まれた古代の建物群が見つかっていますが、墨書土器「大領」「子弟」や木簡の出土により、それらが古代亘理郡に関係する重要な施設であることが分かってきました。また、木製品は古代の様々な営みを鮮やかに現代に伝えています。今後、木簡の解読等を進めていくことで、さらなる発見が期待されます。

調査協力　東日本旅客鉄道株式会社
山元町教育委員会
宮城県多賀城跡調査研究所